

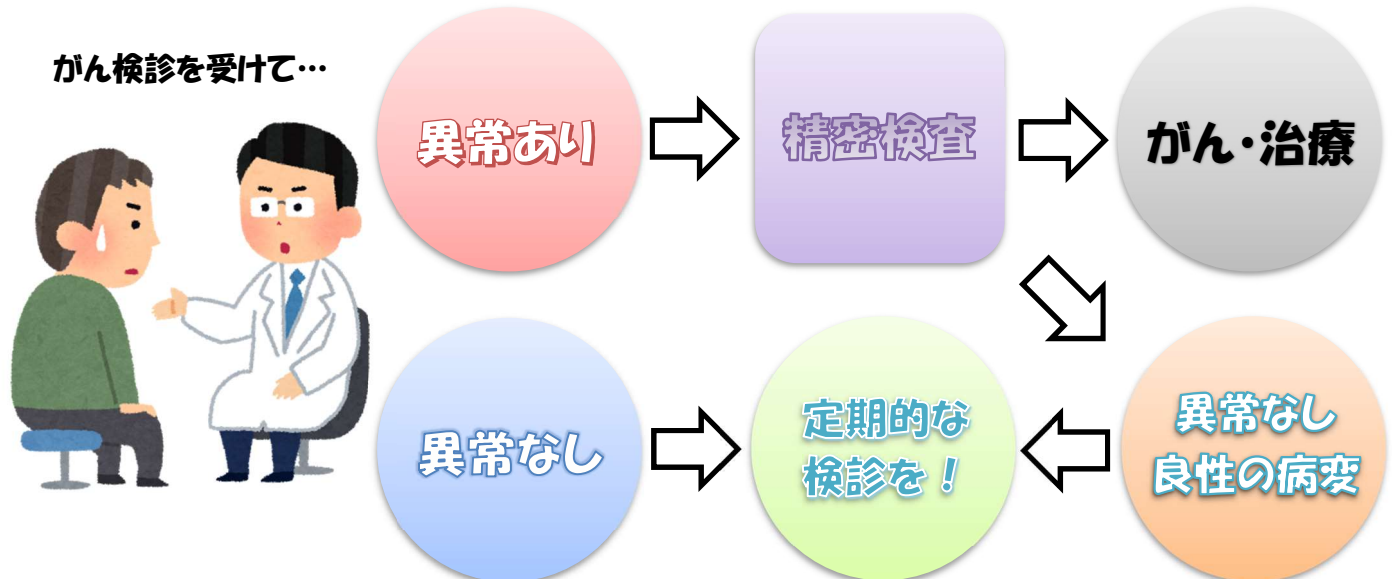
定期的に受けましょう！「がん検診」

現在、日本のがんによる死亡者数は年間 37 万人を超え、死亡原因の第1位を占めるようになりました。日本人男性の3人に2人、女性の2人に1人が生涯でがんを発症するといえます。しかし診断と治療の進歩により、一部のがんでは早期発見、そして早期治療が可能となってきました。がん検診はこうした医療技術に基づき、**がんの死亡率を減少させることができる確実な方法**です。がん検診を正しく受けるにはがん検診を正しく知ることが大切です。正しい知識を身に付けて受診しましょう！

がん検診の目的について

がん検診の目的は、がんを早期発見し適切な治療を行うことでがんによる死亡を減少させることです。単に多くのがんを見つけることが、がん検診の目的ではありません。無症状のうちにがんを早期に発見し治療することが大切です。**無症状の人には進行がんが少なく**、早期のうちにがんを発見することができます。がんを治療することにより、がんによる死亡のリスクを軽減することができます。症状が無いから大丈夫ではなく、**症状が出てからだともう手遅れ**という恐ろしいケースもあるのが、がんという病気なのです。

がん検診の流れについて



がん検診は、一見健康な人に対して、「がん(異常)がありそう」、「がん(異常)がなさそう」ということを判定し、「ありそう」とされる人を精密検査で診断して、**救命できる「がん」**を発見することを目的としています。がん検診を受けて「がん(異常)がない」場合は、次回の検診を受診することになりますが、「精密検査が必要」と判断された場合には、精密検査を受診することが必要です。精密検査を受診して、「異常なし、または良性の病変」であったときは、また次回の検診へ。検診で「がん」が必ず発見できるとは限りませんので、**定期的に受診することが大切**です。「がん」と判定された場合は、病状に適した治療へと進んでいきます。

がん検診の種類について

胃がん	・問診、胃部X線検査、胃管内視鏡検査
子宮がん	・問診、視診、細胞診、内診
乳がん	・問診、マンモグラフィ
肺がん	・問診、胸部X線検査、喀痰細胞診
大腸がん	・問診、便潜血検査



がん死亡率の減少を目的として、有効性が確立された検査方法で実施される検診を「**対策型検診**」といい、上記5つの検診が指標とされています。公的な予防対策として行われる検診のため、市区町村のほか、職域・医療保険者等の保健事業として行っているケースがあります。各がん検診は病院の人間ドックや巡回健診のオプション検査等でも受診することができます。※1万円を超える場合は補助金制度をご利用ください。

出典：日本医師会、国立がん研究センター

郵送によるがん検診について

組合では上記5つのうち胃がん、子宮がん、肺がん、大腸がんの4つに加え、前立腺がんの検査も含めた「**郵送によるがん検診**」を行っており、年に2回(4月・9月)発行される国保だよりにてお申し込みを受付けております。郵送のやりとりで簡単に検査ができ、**加入者の方であればどなたでも無料でがん検診を受けられます**ので、忙しくてなかなか病院に行く時間が取れないという方も是非ご利用ください。

郵送によるがん検診を
申し込んでみたい…



組合の郵送によるがん検診をご利用ください

次回は国保だより9月号にて申し込み可能です。

(全加入者対象、無料実施)

次回のお申し込み対象は以下3つの検診です。

○大腸がん検診

○胃がん検診(ペプシノゲン、ピロリ)

○肺がん検診

※詳しくは当組合事務局までお問い合わせください



こちらのQRコードをスマートフォンで読み込むと組合HPへアクセスできます。

作成：関東信越税理士国民健康保険組合

さいたま市大宮区桜木町 4-376-1

TEL:048-631-2211 FAX:048-644-3030